

# 「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」

## 第3回 委員会資料

### I. 計画の前提

### II. 整備・活用の方針(案)

(※愛知青少年公園計画・中間報告 H17. 7)

### III. パブリックコメントの結果概要

#### 3-1 パブリックコメントの結果概要

..... 1

### IV. ゾーニングと整備内容

#### 4-1 ゾーニング

..... 3

#### 4-2 ゾーンニングと整備内容

..... 4

#### 4-3 博覧会施設の活用

..... 5

### V. 全体計画

#### 5-1 利用者数・駐車場容量

..... 6

#### 5-2 動線計画

..... 7

#### 5-3 項目別方針

..... 8

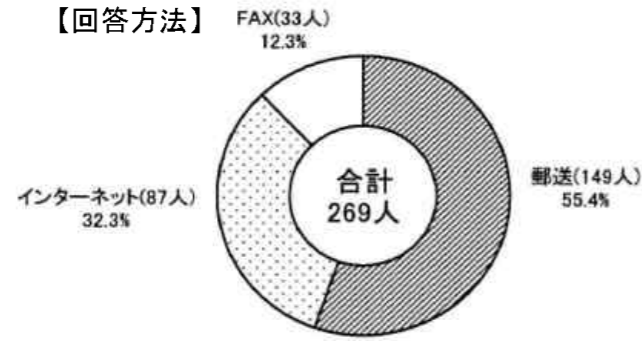
(景観・自然環境保全・植栽・  
防災、ユニバーサルデザイン)

パブリックコメントの結果概要は以下のとおりである。

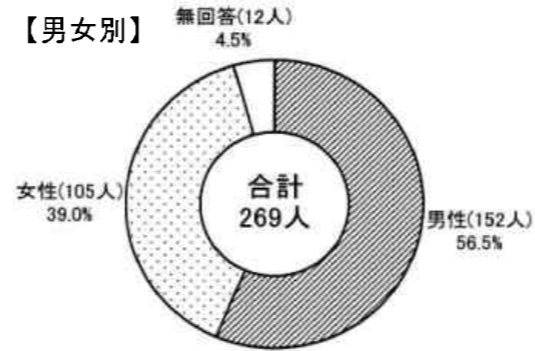
- 回答者数: 269人
- 調査期間: 平成17年7月13日(水)~8月12日(金)
- 回答方法: 郵送、インターネット、FAX

### 1) 回答者の属性

#### 【回答方法】



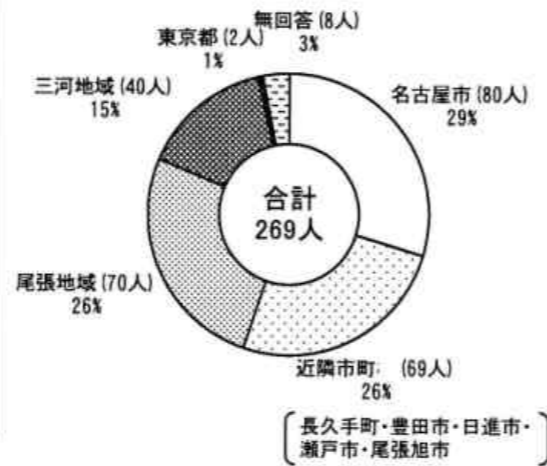
#### 【男女別】



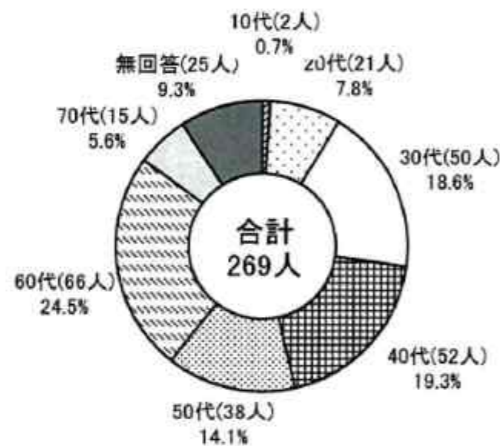
#### 【居住地】

項目	人数	割合
名古屋市	80	29.7%
豊田市	19	7.1%
瀬戸市	19	7.1%
長久手町	16	5.9%
春日井市	13	4.8%
一宮市	11	4.1%
豊橋市	9	3.3%
日進市	8	3.0%
安城市	7	2.6%
尾張旭市	7	2.6%
岡崎市	6	2.2%
刈谷市	5	1.9%
稲沢市	4	1.5%
加多市	4	1.5%
その他愛知県	51	19.0%
東京都	2	0.7%
無回答	8	3.0%
計	269	

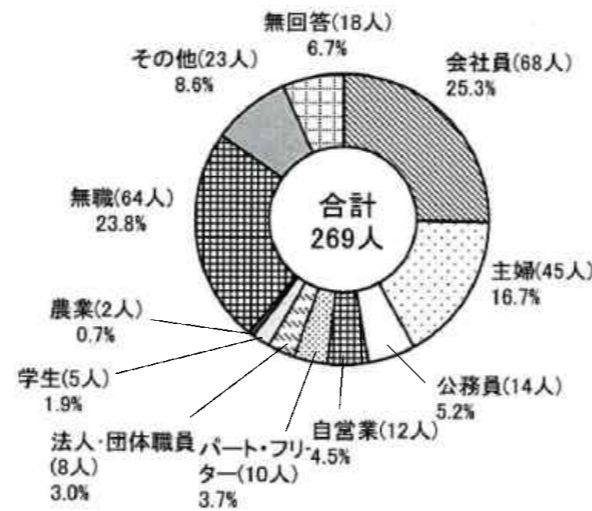
#### (地域別の割合)



#### 【年代】



#### 【職業】



### 2) 回答者数・意見数の内訳

意見の項目別内訳は以下の表のとおりである。意見抽出は、重複回答によっており、各項目毎で全回答者数269人に対する比率を表示した。施設に関する意見が全体の約半数あり、博覧会、運営管理に関する意見が続いている。

#### ■項目別回答者数

項目	人数	割合
1) 計画全般 ※1	37	13.8%
2) 自然・環境配慮	56	20.8%
3) ユニバーサルデザイン	34	12.6%
4) 防災	8	3.0%
5) 施設 ※2	131	48.7%
6) 運営・管理	69	25.7%
7) 博覧会の継承 ※3	78	29.0%
8) その他	18	6.7%

(※1、※2、※3の詳細については下記参照)

#### 1) 計画全般に関する意見数内訳

項目	件数	割合
①方針・ゾーニング	27	10.0%
②名称	10	3.7%
計	37	

#### 5) 施設に関する意見数内訳

項目	件数	割合
①運動系施設	78	29.0%
②管理・便益・休憩・宿泊系施設	40	14.9%
③文化系施設	37	13.8%
④野外活動系施設(キャンプ・芝生・遊具)	33	12.3%
計	188	

※重複回答による集計

#### 7) 博覧会の継承内訳

項目	件数	割合
施設 ①施設全般	46	17.1%
②サツキとメイの家	20	7.4%
③環境系施設	8	3.0%
④グローバルループ	8	3.0%
⑤遊園地	8	3.0%
ソフト面	5	1.9%
計	95	

※重複回答による集計

3)意見内容のまとめ

項目	細目	意見数	主な意見 同様な意見を集約し、件数を多いものから( )に計上	意見に対する対応
1) 計画全般	方針・ゾーニング	27	・「整備・活用の方針」、「ゾーニング」とも概ね賛同(11) ・自然豊かな公園、森を大切に(5)	・中間報告で示した「整備・活用の方針」、「ゾーニング」に沿って計画を進める
	名称	10	・新たな公園名が必要(8) ・万博に因んだ名称を(2)	・新公園名称については公募により決定
2) 自然・環境配慮		56	・自然と共存し自然を楽しむ緑豊かな公園(34) ・壊した自然を元に戻す、森づくり(15)	・もりのゾーン等で対応 ・新規整備区域での自然回復
3) ユニバーサルデザイン		34	・子どもから高齢者まで誰もにもやさしく魅力ある整備、企画(16) ・バリアフリー、ゆるやかなスロープ(12) ・休憩所設置(2) ・乳幼児に配慮した施設(2)	・ユニバーサル対応の施設・園路の整備 ・身障者や高齢者の方が楽しめるイベント等実施
4) 防災		8	・自衛隊の駐屯・施設には反対(3) ・環境と共生する公園を防災活動支援拠点として共用していくことは適切でない(2) ・災害時に幅広い活用(1) ・防災拠点としての活動内容をふまえた整備が必要(1) ・被災者の多い場所がよく、地理的に無理(1)	・防災時に利用する施設は樹林地を開発するのではなく、広く平坦な敷地であるスポーツ施設や駐車場を柔軟に活用する ・救援隊の公園使用は災害時のみである
5) 施設 右表参照※	①運動系施設	78	・サイクリング(17) ・野球場(5) ・プール(5) ・BMX(4) ・テニスコート(4) ・体育館(4)	・施設の種類・規模等は旧公園の利用実態等を考慮する ・運動施設は複合多目的に利用できるものとする
	②管理・便益・休憩・宿泊系施設	40	・宿泊施設(14) ・駐車場の確保、ゆったりと(5) ・雨天でも利用できる施設(3)	・宿泊施設については、旧公園の利用率が低いこと等を考慮 ・便益・休憩施設の充実
	③文化系施設	37	・文化・サークル系施設(17) ・環境系施設(14) ・健康づくり系施設(6)	・複合的な建築物として対応を検討 ・管理運営計画と連動させ検討
	④野外活動系施設(キャンプ・芝生・遊具)	33	・キャンプ場(12) ・芝生広場(6) ・幼児の遊び場(5) ・ドッグラン(5)	・みんなのひろばやこどものひろばで対応
6) 運営・管理		69	・維持管理を安く(13) ・民間やNPO、ボランティアの運営・管理への参加(10) ・魅力あるイベントの企画(8) ・入場料などを安く(4)	・コスト面を考慮した管理運営 ・県民参加による公園管理運営の推進
7) 博覧会	施設全般	46	・博覧会の施設・モニュメントを残す(21) ・パビリオン等を残す(14) (エキスポドームを残す(2)、長久手日本館(2)、瀬戸愛知県館(2)、大地の塔を残す(2)他) ・博覧会記念公園、記念施設をつくる(9) ・撤去(2)	・記念性、経済性(特に仮設構造物からの改修費)、公園として有効利用などを考慮し検討
	グローバル	8	・便利なので残して欲しい(7) ・強度がないので残す必要はない(1)	
	サツキとメイの家(施設)	20	・長く残す。トロの森として充実(14) ・運営維持に疑問(4) ・不要(2)	・博覧会の人気施設であり、県民の存置要望の高い施設であることを考慮し検討
	環境系施設	8	・環境学習等、環境系施設を残す(5) ・日本庭園の活用(3)	・日本庭園、森林体感ゾーンは博覧会後も公園施設として活用
	遊園地	8	・大観覧車は里山とマッチしない、安全性に不安(3) ・遊園地の要望(2) ・遊園地ではリピーターは来ない(1) ・大観覧車はシンボルとして残す(1) ・子どもの夢の遊具として残す(1)	・公園の「整備・活用の方針」、「ゾーニング」との整合性を考慮し検討
	博覧会の継承(ソフト面)	5	・博覧会ソフト(インタープリターなど)の継承・県民参加型管理運営の継続(5)	・博覧会成果を継承していくことを公園づくりの1つの方針として推進
8) その他		18	・万博感想～感動した、大好評など(10) ・カタカナ表記がわかりにくい(3)	・博覧会開催を記念した展示施設の整備

※ ■施設要望に関わる意見の内訳

施設① 運動系施設の内訳	78
●要望	
サイクリング	17
野球場	5
プール	5
◆ BMX(バイスクルモトクロス)	4
テニスコート	4
体育館	4
サッカー場	3
ウォーキング	3
陸上競技場	3
卓球場	3
アイススケート場	3
◆ 馬場	2
ホッケー場	1
ペタンク	1
◆ ハンマー投げ	1
◆ バターゴルフ	1
トレーニングコース	1
クロスカントリー	1
◆ アーチェリー場	1
ゲートボール場	1
グラウンドゴルフ場	1
計	65
●不要、優先すべきでない	
プール不要	3
野球場 優先すべきでない	2
野球場 不要	2
サッカー場 優先すべきでない	2
アイススケート場 不要	2
サッカー場 不要	1
テニスコート 不要	1
計	13
施設② 管理・便益・休憩・宿泊系施設の内訳	40
◆ 宿泊施設	14
駐車場	5
雨天使用施設	3
ベンチ・休憩所	2
トイレ	2
カフェ	2
◆ 東山動物園移転	2
手洗い・水飲み(水道)の整備	2
茶室	2
◆ 協働の拠点となる建物	1
寄宿舎付きの小・中学校	1
周辺道路の改善	1
園内移動施設	1
イベントのできる部屋	1
管理費のかかる施設は不要	1
計	40

◆ = 施設展開案で対応していない施設

施設③ 文化系施設の内訳	37
●環境系	
生態環境博物館	4
生態系自然史博物館	1
自然博物館	1
◆ 環境技術研究施設	1
環境学習拠点施設	1
◆ 環境・国際交流・科学技術の学習体験施設	1
学習機械(学習クイズ端末)	1
愛・地球博メモリアルセンター	1
風車のような環境PRモニュメント	1
森林内の学習施設	1
◆ "自然・文化・生態・環境"の総合的な県立博物館	1
計	14
●文化・サークル系	
文化室	1
美術展示	1
陶芸教室	1
◆ 天文台	1
◆ 戦争資料館	1
◆ 子育て支援センター	1
教育研修施設	1
◆ 産業遺産博物館	1
◆ 映画館	1
愛知の歴史がわかる施設	1
ワールドセンター(世界の食・社会体験)	1
ボランティア研修センター	1
テーマパーク	1
コンサート・イベントができる場	1
インタープリター養成講座	1
◆ 国技館	1
◆ 歌舞伎座	1
計	17
●健康づくり系	
体験農園・農業公園・レンタル農場	3
健康増進関連施設	2
人体・健康・病気・医学・医療展示館	1
計	6
施設④ 野外活動系施設(キャンプ・芝生・遊具)の内訳	33
キャンプ場	12
芝生広場	6
幼児の遊び場	5
ドッグラン	5
バーベキュー場	2
自然の遊びが出来る場所	1
施設は最小限に	1
遊具	1
計	33

公園のゾーニング（空間構成）は、公園の整備・活用の方針と敷地条件を踏まえ、以下のように設定した。また、各エリアの性格と主な利用イメージを、右表に整理した。

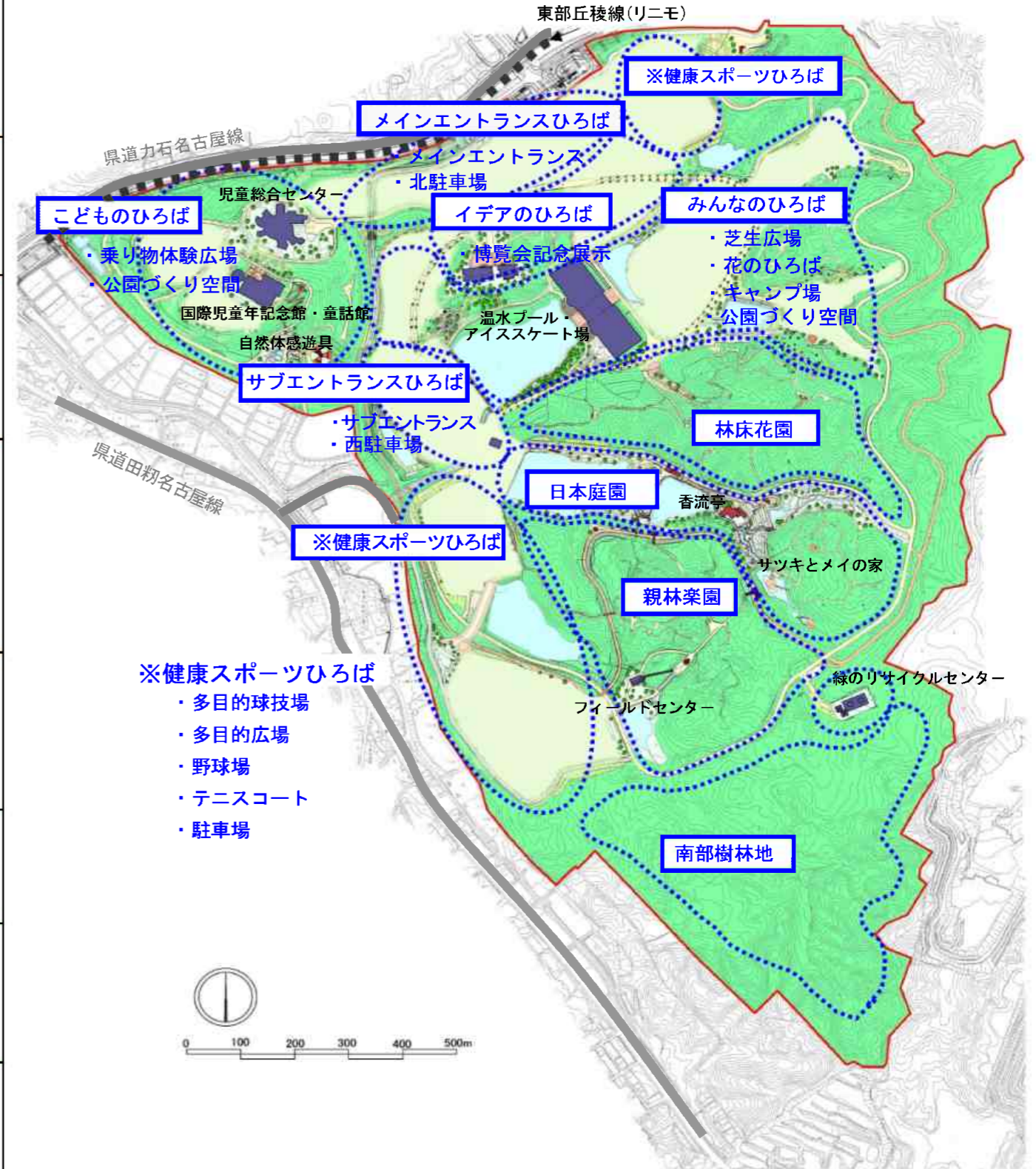


名称	エリアの性格	利用イメージ
みんなのひろば	水と緑の中での多様な交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>池や水路などの水辺空間や背後にある樹林地を取り込んだ魅力的な交流空間</li> <li>芝生広場のような多目的利用が可能な開放的な空間で、子どもから老人までの幅広い公園利用者が、多様な交流を賑やかに展開</li> <li>各種イベント・プログラムの展開、県民協働による公園づくりプログラムの実施、公園管理運営拠点</li> <li>野外活動、資源循環・自然エネルギー等についての体験学習、ディキャンプ利用</li> <li>非常時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	子どもの遊び・体験・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの遊び・体験・レクリエーションの場として利活用</li> <li>愛知県児童総合センター、愛知国際児童館との連携</li> <li>自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入</li> <li>県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施</li> </ul>
	健康づくりスポーツを家族や仲間と楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑に囲まれた広い空間、環境を活かした県民の複合多目的な健康づくりスポーツの場（サッカー、野球など）として利用</li> <li>利用メニューは、旧公園の利用実態や周辺分布状況を考慮し決定</li> <li>非常時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園のエントランスらしい華やかさや環境共生への配慮を考慮した空間</li> <li>公園全体案内や情報提供</li> <li>リニモ公園駅や駐車場からの安全で快適な利用</li> <li>公園の全景を見渡することができる（メインエントランス）</li> <li>パーク&amp;ライド（メインエントランス）</li> <li>防災時の緊急車両駐車スペースとして利用</li> </ul>
	コアとなるテーマ展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>博覧会の継承として、モニュメンタリーな場所、これからの公園のあり方・理念を象徴する空間</li> <li>博覧会成果を継承、例えば資源循環などへの取り組みを関係機関や団体、企業、市民と協働で実践</li> <li>複合交流体験機能を持たせた施設の設置（公園管理運営機能、博覧会の理念の継承等テーマ性のある展示、防災支援機能など）</li> <li>博覧会で培われた交流の場としての継続的活用</li> </ul>
もりのゾーン	四季折々の樹林風景を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサル園路を利用して誰もが森に入って四季折々の風景を楽しむ</li> <li>環境学習の場として利用</li> </ul>
	伝統文化とのふれあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化とのふれあい拠点として多面的に利活用</li> <li>鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップによる開催を検討</li> </ul>
	自然学習・野外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹林地内での活動を通じて身近な自然とふれあい、学習し、自然環境への理解を深める場として利用</li> <li>フィールドセンターを活動拠点として利用</li> <li>リサイクルセンターでは刈草・剪定枝を堆肥化し、園内リサイクルを実践</li> </ul>
	緑地保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹林地の保全を第1に考えるエリア</li> <li>観察会等の環境学習プログラムとの連携により、必要時に開放し、自然学習・教育活動を実施</li> <li>インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの実施など</li> </ul>

■ゾーニングと整備内容

名称	施設展開(案)
こどもゾーン	<p><b>みんなのひろば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大芝生広場：大勢の人が参加・交流できる多様なイベントに対応する広く開放的な空間 愛・地球広場を活用、各種イベント等の開催</li> <li>○花の広場：花木や草花により、四季の景を楽しむ</li> <li>○キャンプ場：ディキャンプ等の気軽な日帰り型アウトドアレクリエーション施設</li> <li>○公園づくり空間：県民協働による計画づくり (災害発生時の防災支援活動拠点として活用)</li> <li>【既設利用】 ○温水プール、アイススケート場</li> </ul>
	<p><b>こどものひろば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乗り物体験広場：スピード感やワクワク感、風を切る爽快感などを体感できる乗り物遊戯空間</li> <li>○公園づくり空間：子どもたちの創造性を高める公園づくり・ワークショップ空間</li> <li>【博覧会前整備施設】</li> <li>○自然体感遊具：自然の力や仕組みを体験する遊戯施設で楽しく遊びながら自然を理解する</li> <li>【既設利用】 ○児童総合センター、国際児童年記念館・童話館</li> </ul>
	<p><b>健康スポーツひろば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各種健康づくりスポーツの場（兼用利用する多目的施設として計画）</li> <li>・多目的球技場（サッカー、ラグビー、ホッケー、ラクロス等）</li> <li>・多目的広場（運動会・ジョギング・マラソン大会等開催空間(400mトラックがとれる規模)、軟式野球、ソフトボール等）</li> <li>・野球場（軟式野球、ソフトボール） ・テニスコート</li> <li>(災害発生時の防災支援活動拠点として活用)</li> </ul>
	<p><b>メインエントランスひろば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の北口混雑の緩和を図ることと公園利用者の利便性を考慮し、公園の北側と西側にエントランスひろば・駐車場を配置</li> </ul> <p><b>サブエントランスひろば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○メインエントランス：(県道)力石名古屋線、リコモ公園駅から安全・快適に利用できる公園の正面入口、主に「みんなのひろば」や「こどものひろば」の利用者を対象</li> <li>○サブエントランス：(県道)田初名古屋線からのアクセスに対応した公園のサブ入口、主に「もりのゾーン」や「健康スポーツひろば」の利用者を対象</li> <li>・各々のエントランスは、公園の玄関にふさわしい空間として整備（情報板、モニュメント等） (災害発生時の防災支援活動拠点として活用)</li> </ul>
	<p><b>アイデアのひろば(コアひろば)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公園運営管理の中心的役割を担う複合的な施設</li> <li>・公園運営管理、休憩、飲食、インフォメーション、サステイナブルと関連を持たせた展示体験、屋内スポーツ(バスケットボール、バレーボール、柔剣道、バドミントン、卓球、フィットネス体操等)、文化活動、防災時対応等</li> <li>○博覧会開催を記念した展示施設（迎賓館、レセプションホールの活用）</li> </ul>
	<p><b>林床花園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサル園路の整備</li> <li>○花木や草花の自生を促すことができる樹林管理</li> <li>【博覧会前整備施設】</li> <li>○ユニバーサル園路、デッキ、休憩所等</li> </ul>
	<p><b>日本庭園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【博覧会前整備施設】</li> <li>○日本庭園：水や緑に恵まれた環境の中で伝統と現代が共鳴し合う庭園、茶室（香流亭）</li> <li>○サツキとメイの家：博覧会人気施設の期限付きの存置活用</li> <li>・鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップにより開催</li> </ul>
	<p><b>親林楽園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○樹林地の間伐等による多様な自然を育む維持管理</li> <li>【博覧会前整備施設】</li> <li>○フィールドセンター（自然学習の活動拠点）、ユニバーサル園路、デッキ、休憩所</li> <li>○リサイクルセンター：刈草・剪定枝を堆肥化し、園内リサイクルを実践</li> </ul>
<p><b>南部樹林地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察会等の環境学習プログラムとの連携により、自然学習・教育活動を検討</li> <li>・インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの検討など</li> </ul>	

■ゾーニングと整備内容



1) 博覧会施設の存置活用に関する基本的な考え方

博覧会施設については原則撤去としていたが、博覧会を記念するにふさわしいかどうかに加え、経済性や公園施設として有効利用できるかなどの観点から、無償で譲り受けることを前提として存置を検討し、候補として以下の施設を選定した。

2) 存置活用する施設

施設名	施設の概要	存置理由
迎賓館	鉄骨造1階建 床面積1,097㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>皇族や外国要人の国際交流の場として使用されたメモリアルな施設であり、記念としてふさわしい。</li> <li>迎賓館およびレセプションホールについては、博覧会記念館としてふさわしい展示などに活用する方向である。</li> </ul>
レセプションホール	鉄骨造1階建 床面積786㎡	
グローバルループの一部	全体2.6kmのうち 延長約160m 幅員約21m	<ul style="list-style-type: none"> <li>博覧会を象徴する建物であることから記念的な意味があるが、ループ全体は公園施設としてなじまないため、公園計画と整合し構造上安全な一部区間について、存置する方向で検討する。</li> <li>コモン3～4の区間については両端が地盤に支えられており、構造上安全であるため、園路として活用することができる。</li> </ul>
愛知県館の事務棟	鉄骨造2階建 床面積608㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩所、管理施設として活用する。</li> </ul>
その他の施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>博覧会協会の設置した舗装、設備配管、休憩所等のうち、公園施設として利用可能なものは活用する。</li> </ul>	

3) 暫定的に存置活用する施設

① サツキとメイの家

- ・サツキとメイの家は「自然と人間が今より親密な関係にあった時代の暮らしを体感してもらおう施設」として建てられ、博覧会の人気施設であり、見学できなかった人が多い。
- ・存置や運営方法について、著作権を持っているスタジオジブリと協議を行い、公園施設として存置の方向で検討する。
- ・存置の期間は建物の耐久性等を考慮し、当面3～5年とする。

<参考> 木造1階建（一部2階）、床面積108㎡

② 観覧車

- ・観覧車は、地元市町からの存置要望が高く、博覧会の余韻を楽しむ施設でもあることから、存置の方向で検討する。
- ・存置の期間は5年を限度とする。また、運営方法は、民間事業者による対応とする。

<参考> 全高88.2m、直径82.5m

■ 存置活用する施設の位置～博覧会会場図より

1) 将来年間利用者数の想定

- ・実績値から将来年間利用者数を推計する。
- ・本公園の近年における入園者数は、概ね年間280万人である。本計画により新たな施設が付加され、公園としての魅力がさらにアップすることから再整備後の年間利用者数は増加すると考えられ、1割増の年間310万人程度を目指すこととする。

2) 駐車場台数の設定

- ・駐車場台数は、過去の駐車場利用の実績値に基づいて、将来利用者数の推計値やリニモ利用による来園手段割合の変動を考慮した上で、必要容量を検討する。
- ・閉園前の過去3年間における普通車の駐車場利用台数の上位実績値を下表に示す。過去3年間の平均では、上位第3位の駐車台数は約3800台となっている。本計画では、上位第3位の駐車台数を基準となる利用日として設定し駐車場容量を検討する。なお、それを越える場合については園路等による臨時駐車スペース確保により対応する。

■ 青少年公園における駐車場利用の実績値(普通車)  
(平成13~11年における駐車場利用台数の上位5日分データ、愛知青少年公園利用者数台帳より抽出)

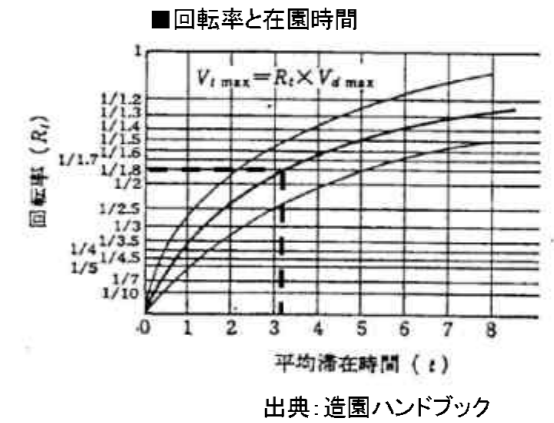
順位	3ヶ年の平均 (台)	平成13年度		平成12年度		平成11年度	
		日時	台数(台)	日時	台数(台)	日時	台数(台)
1	4185	5/4(金)	4373	5/5(金)	3659	5/30(日)	4526
2	4009	9/23(日)	4069	5/4(木)	3632	5/3(月)	4328
3	3784	11/4(日)	3867	5/28(日)	3382	5/4(火)	3995
4	3659	3/31(日)	3855	11/26(日)	3358	5/23(日)	3756
5	3507	5/5(土)	3808	11/5(日)	3158	11/3(水)	3555

● 基準日における普通車利用台数

- ・本整備により前述(将来年間利用者)のように利用者は1割増加する。これにより基準日の普通車台数も1割増加するとし、 $3800 \times 1.1 = 4180$ 台となる。
- ・一方、閉園前の公共交通機関を利用したの来園者割合は1割であるが、整備されるリニモを利用したの来園は増加すると考えられる。その来園者割合は、愛知県における郊外鉄道沿線レジャー施設のマストラ利用率を用いて28%と設定する。
- ・これにより、基準日における普通車利用台数は、 $(4,180 \text{台} \div 0.9) \times 0.72 = 3344$ 台となる。

● 駐車場必要容量

- ・回転率を $1/1.8$ (平均滞在時間を平成13年度国土交通省公園利用実態調査による国営公園の休日平均在園時間データより約3.1時間とする。本公園は広域公園であるが規模・利用人員等、国営公園級であり国営公園在園時間データにて計上)とすると、駐車場の必要容量は以下の通りとなる。
- ・必要普通車駐車台数  $3,344 \text{台} \div 1.8 \approx 1,860$ 台
- ・身障者用スペースについても、必要台数を確保する。
- ・基準日を越える利用がある場合には、公園利用者の動線には直接影響がない管理用園路を臨時駐車場(約2km、縦列駐車で約260台駐車可能)として活用するなど、運営面で柔軟な対応を検討する。



■ 休日における公園別・年齢別平均在園時間

	休日	単位: 時間						
		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営
学齢前	2.05	0.67	0.85	1.10	1.60	1.39	2.23	3.40
小学生下級生	2.37	0.94	1.08	0.97	1.83	1.81	2.73	3.75
小学生上級生	2.40	0.80	0.95	1.31	2.60	1.58	2.87	4.01
中学・高校生	2.69	1.02	0.72	1.03	3.39	1.86	3.68	3.47
大人(19~64歳)	1.78	0.55	0.96	0.97	1.89	1.24	2.04	2.81
高齢者(65歳以上)	1.82	1.09	0.63	0.99	1.73	1.31	2.11	3.55
全体	1.95	0.74	0.89	1.01	2.11	1.35	2.25	3.13

出典: 国土交通省 都市公園利用実態調査(H13)

- ・大型車についてもマストラ利用率を考慮し換算すると、最大日利用台数は《(84台(実績値)  $\times 1.1$ )  $\div 0.9$ 》 $\times 0.72 = 74$ 台となる。大型車での来園は団体行事等が多く、在園時間が普通乗用車よりも長くなり、回転率も普通車より小さくなる。また、大型車利用がされない際は、普通車の駐車スペースとしても活用できるため、普通車で計算したような回転率は考慮せず、現況台数程度(72台)を基本とした設定とする。
- ・その他、自動二輪については、過去の利用実績から現況の駐車台数(45台)を基本とした台数を確保する。

1) 動線の構成

公園の動線計画は、公園施設間の相互連絡をスムーズに行うと共に、施設間内の連絡路を効果的に配置するものであり、先に示したエントランスや主要施設の位置、博覧会の園路形態の活用を考慮し以下のように設定する。

●人の動線

・人の動線は、メインエントランスとサブエントランスの2ヶ所が結節点となり、それぞれの場所から放射状に主要施設への連絡する動線を主動線として設定する。この動線は誰もが歩きやすいユニバーサル園路となるよう配置する。なお、幅員構成については地形条件等も加味し配置する。各エリア内は、細動線により全体的なネットワーク化を図る。

●車の動線

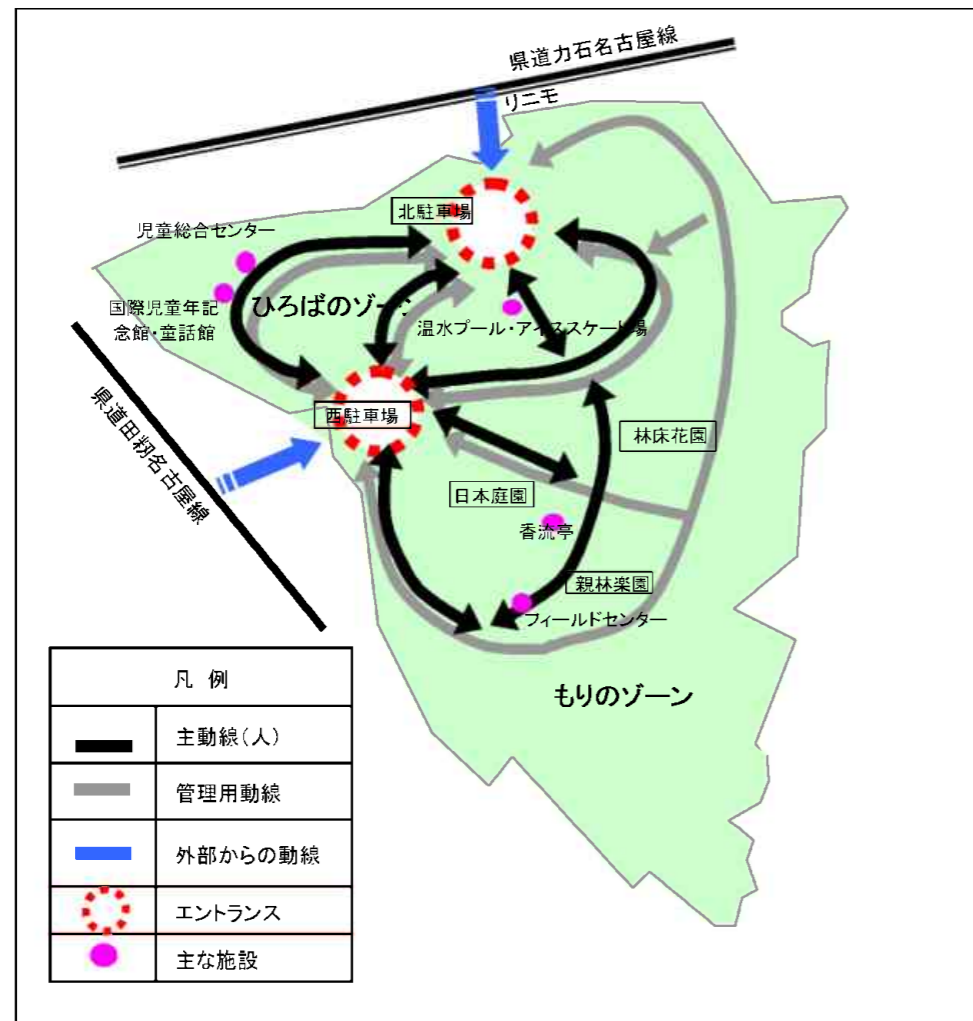
ア) 管理用動線

・先に示した主動線ともりのゾーン外周部を結ぶ動線を管理用動線として設定する。防災時の動線としても機能する。

イ) 外部からの動線

・外部からの車の動線は、メインエントランスに配置される北駐車場、サブエントランスに配置される西駐車場への公園外部から公園内への進入路となる動線である。

■動線の構成イメージ



2) 園路計画

●幹線園路

- ・動線の構成で示した主動線の内、管理用動線を兼ねるものを幹線園路として設定する。幹線園路は、公園の中心部に環状型で位置し、メインエントランス、サブエントランスを連絡するAタイプとその他の路線であるBタイプに区分する。Aタイプは、防災時の主となる動線として機能する。
- ・基本幅員は、Aタイプについては、景観面のシンボル性を考慮し並木道となるよう12mと設定し、Bタイプは8mと設定する。

●支線園路

- ・幹線園路を補完するルートであり、基本幅員は2~6mとする。
- ・前項で示した主動線の内、「もりのゾーン」の樹林地内園路も支線園路として扱う。また、健康スポーツひろば南地区は、敷地形態上2つの広場に分断されるが、博覧会施設であったグローバルループの一部を活用し、ユニバーサル動線で連絡する。

●サイクリングロード

- ・自転車専用の動線である。もりのゾーンについては既存のルートを踏襲し、ひろばのゾーンについては、施設配置計画と整合を図りながら新規整備する。

●進入路

- ・各エントランスから駐車場までの動線であり、車道規格として整備する。

■園路計画





各項目別に基本方針を整理する。

### 1) 景観計画

#### ● 基本方針

- ・ 緩やかな傾斜をもった丘陵地形であり、谷筋、尾根筋、ため池など、変化のある景観を楽しめる景観計画とする。特に、ため池は本公園に多数散在しており、水景を取り込んだ潤いのある景観とする。
- ・ もりのゾーンや大花壇など博覧会前整備区域は、博覧会時の景観を引き継いでいく。また、新たに整備する施設周辺は、背後の樹林地との調和を考慮する。
- ・ 個々の地点における、見通し、眺望などの景観演出要素を考慮しながら特色ある整備を行う。

#### ■ 個別方針

##### ① エントランスからの景観

- ・ エントランスからの景観は、周辺の樹林地やため池との調和を考慮しながら、公園の玄関にふさわしい華やかな景観とする。

##### ② 芝生の広がり景観

- ・ 公園の中心的位置にある大芝生広場は、博覧会における愛・地球広場を活用しつつ、来園者が広々とした開放的な芝生の広がりを感じられる景観とする。

##### ③ ため池沿い、沢筋の水と緑の景観

- ・ ため池沿いは、沢筋に展開するため池や背後の樹林地からなる水と緑により構成し、谷地形の見通しを生かした落ち着いた景観とする。

##### ④ 施設の景観

- ・ 配置する各施設の整備にあたっては、周辺の樹林地や地形、ため池などとの調和がとれた景観構成とする。
- ・ 標高が高く、周辺への眺望が良好な場所は眺望ポイントとして活用する。

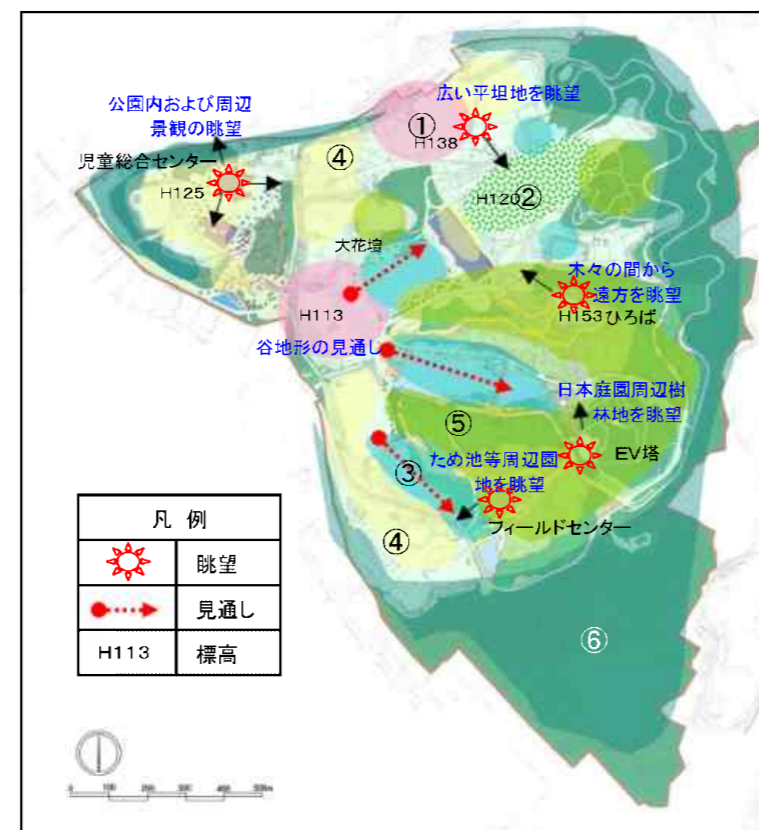
##### ⑤ もりのゾーン周辺樹林の景観

- ・ 博覧会で整備済である「もりのゾーン」等の園地内の既存樹林地は、林床などの整備により、美しい樹林景観とする。

##### ⑥ 外周部樹林地の景観

- ・ 公園外周部及び南部の樹林地は、公園外周を包む緑量感のある樹林景観とする。
- ・ 北側外周部の県道沿い法面は、来園者を公園へ誘導する華やかさを演出した樹林景観とする。

#### ■ 個別方針の該当位置



### 2) 自然環境保全計画

#### ● 基本方針

- ・ 既存樹林地の維持を図ると共に、博覧会施設跡地での自然回復を図る。（こいの池南側の植樹など）
- ・ 具体的な動植物の保全に際しては、博覧会整備前における現地調査結果を踏まえ対応する。

#### ○ 植物

- ・ 現況種における注目すべき植物群落は、貧栄養湿地群落※、モンゴリナラ群落が上げられる。貧栄養湿地群落は、もりのゾーンにおけるため池周辺、モンゴリナラ群落は、公園の樹林地全域で確認されている。植物種から見た保全重要性の高いエリアは調査結果によると、かえで池（日本庭園）南側と公園南部における二次林であり、維持管理において十分配慮する。

※サギソウ、シラタマホシクサ、ミミカキグサ、シマジタムラソウ、タチモ等

#### ○ 動物

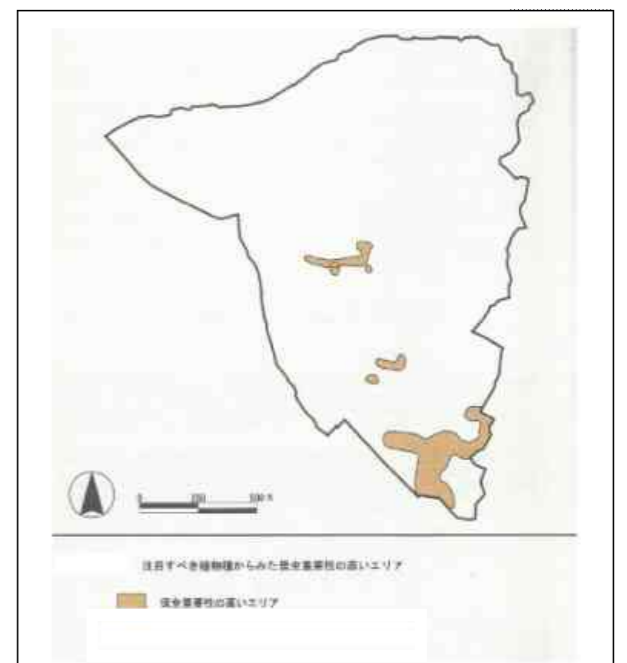
- ・ 博覧会整備前の現地調査結果によると、確認された注目すべき動物種は、鳥類としてオオタカ、ハチクマ、カワセミ、アオゲラ等の14種、魚類として、カワバタモロコ、ホトケドジョウ、昆虫類として、ギフチョウ、ベニイトトンボ、ハッチョウトンボ等8種が確認された。これらの動物種の多くはササ池、カキツバタ池、日本庭園東側の池やかめの池等のため池および樹林地周辺で確認されており、ため池を中心に生物の生息環境の保全に配慮した公園整備、活用とする。

- ・ なお、工事中の環境への配慮としては、既存樹林内への不用意な立ち入りを禁止することや、工事で発生する濁水について処理を行った上で放流を行うものとする。また、環境負荷の低減への配慮やリサイクルの推進を図る。

#### ■ 注目すべき植物種(モンゴリナラ)確認位置 (出典:2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価書)



#### ■ 注目すべき植物種からみた保全重要性の高いエリア (出典:2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価書)



## 3) 植栽計画

## ●基本方針

- ・ひろばのゾーンで、博覧会施設撤去後の景観上のポイントとなる園路、広場、ため池沿い、主要施設周辺において、それぞれの場所の機能（修景、緑陰の確保、鑑賞等）を考慮した植栽を行う。
- ・もりのゾーンや公園外周部の既存樹林は、緑豊かな景観を保持するため、適切な維持管理を行う。
- ・閉園前に仮移植されている旧公園の樹木を積極的に配植する。

## ■個別方針

## ○エントランス周辺

- ・ロータリー等、公園の入口に当たる部分は玄関口にふさわしい華やかな景観を創出する必要があり、樹形に特色のある高木や、色鮮やかな低木・地被等を中心に明快な配植を行う。
- ・駐車場部は、視認性を確保したシンプルな植栽で耐乾性等、管理面を考慮した配植を行う。

## ○各種広場周辺

- ・芝生広場や運動施設などの周辺では、機能に配慮し、高木を中心に季節が感じられる植栽とし、各広場ごとに特色ある配色を行う。

## ○もりのゾーン・外周樹林地

- ・植物の成長を考慮し適宜維持管理を行い、明るい林床空間、見通しのきく樹林地として維持する。
- ・広場境界の法面付近では、既存樹林地との連続的の一体性を原則として、自然回復緑化に努める。

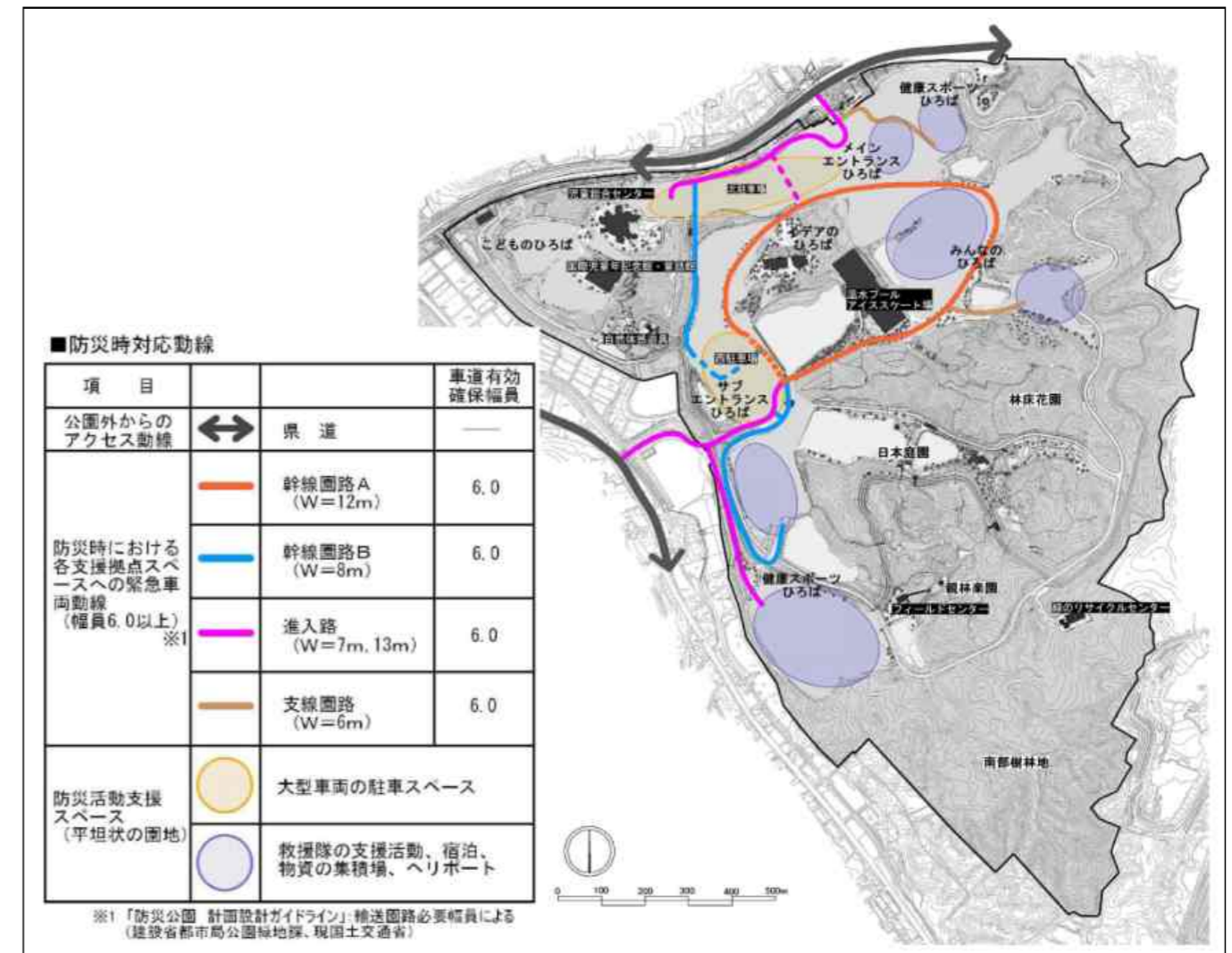
## 4) 防災計画

中核広域防災活動拠点として必要となる以下の機能を整備する。

## ●基本方針

- ・救援部隊の輸送機能の確保するため、公園入口から防災活動支援スペースとなる広場等へ連絡し、緊急車両が通行可能な幅員6.0mを満足する園路を、緊急車両動線として設定する。
- ・防災活動支援スペースとしては、大型車両の駐車スペースに駐車場を配置する。また、救援部隊の支援活動、宿泊、物資の集積場については、大空間である多目的広場、多目的球技場、大芝生広場、キャンプ場、野球場にて対応する。
- ・臨時ヘリポートは、ヘリコプターの離着陸機能を考慮し、障害物のかからないコースに対応できるスポーツ広場などを対象に設定する。
- ・救援部隊の拠点として救援部隊の指揮所をメインエントランスに設ける複合的な施設（中央棟体育館等）で対応する。また、備蓄庫を中央棟と一体的に整備する。

## ■防災時対応動線計画



## 5)ユニバーサルデザイン

誰もが安心して利用できる「人にやさしい公園」となるようユニバーサルデザインを推進する。施設整備の指標としては「愛知県 人にやさしい街づくり」による基準を基本とする。

## ●基本方針

## ○アクセス

- ・公園の主要施設や見所は、誰もが到達できるよう歩きやすい主動線としてネットワークさせる。主動線の園路勾配は4%を目標とするが、地形上やむを得ない場合は8%以下とする。
- ・動線の結節点となる場所には公園全体の案内板やルート表示を配置する。また、視覚的な表示だけでなく、場所によっては、点字等による誘導を行う。
- ・急勾配が想定されるルートや階段が存在するルートは、必要に応じエレベーター等の設置を行う。また、情報の提供や迂回動線の案内を行い、利用者が自ら判断できる施設整備を行う。

## ○プログラム

- ・高齢者や障害者等が安心して参加できるレクリエーションプログラムの導入を検討する。

## ○施設整備

- ・誰もが利用しやすく、安全性に配慮した施設整備を行う。
- ・主要施設やトイレには乳幼児や障害者への対応を図った施設整備を行う。
- ・植栽や水景整備により、香りや木々のざわめき、水の流れる音などが楽しめる工夫を行う。

## ■ユニバーサル動線

